



登ると わかる(かわる) 植生垂直分布

高さで変わる植物の分布

垂直分布(すいちよくぶんぷ)とは?
高い山に登っていくと、どんどん気温が下がっていきます。実際、海岸近くで気温30℃の時、白山山頂(2,702m)では気温14℃くらいになります。このように、標高によって気温やその他の環境が変化し、その環境に対応した生物が異なって分布することを垂直分布といいます。つまり、高い山でよく見られる木と平地でよく見られる木とは違っているということです。



本州中部地方に見られる植生の垂直分布模試図

白山に見られる植生の垂直分布

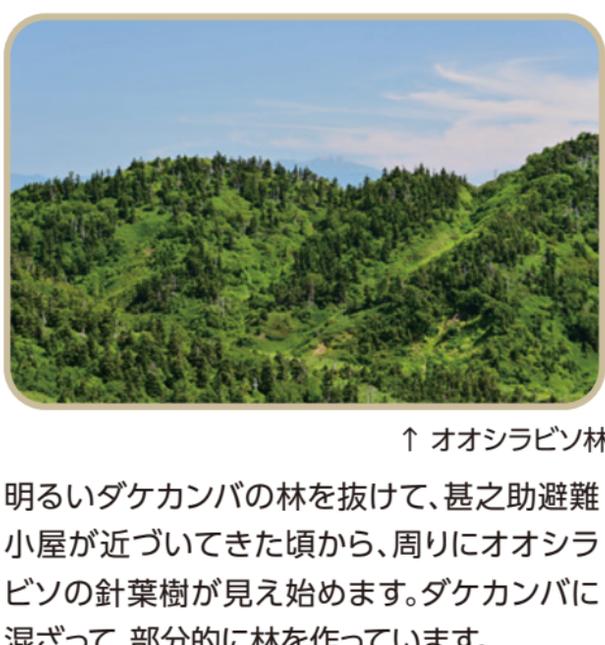
白山登山で見られる垂直分布



↑ お花畑(室堂)

白山で最も多く利用される登山道は石川県白山市の砂防新道(さぼうしんどう)です。この登山道を利用して御前峰(ごぜんがみね)に登るコースでも、植生(しょくせい)の垂直分布の様子がわかります。市ノ瀬から出発して、別当出合登山口(べっとうであいとざんぐち)から御前峰を登った場合の、植生の変化の様子を見てみましょう。

市ノ瀬(いちのせ)～ 別当出合(べっとうであい)



↑ ブナ林

夏山の最盛期は市ノ瀬から登山シャトルバスに乗ります。バスの窓の外には豊かなブナ林が広がります。道路を覆うように太い幹が地面から、空に向かって枝を伸ばしています。

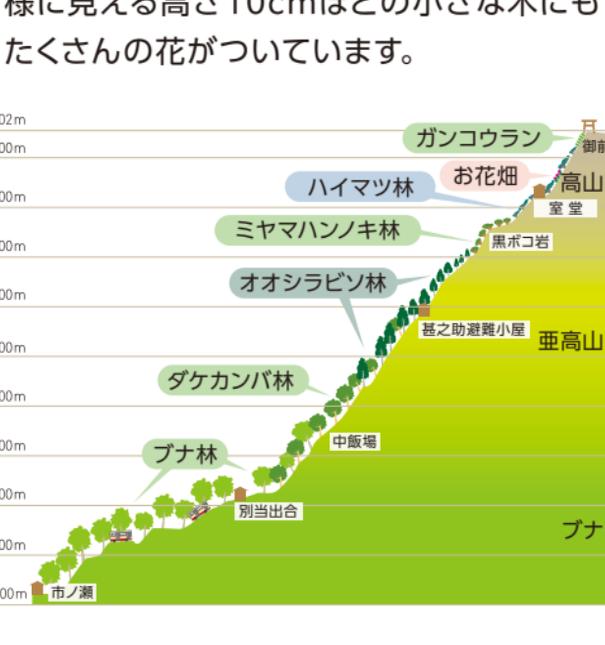
別当出合～中飯場(なかはんば)



↑ ダケカンバ林

いよいよ登山開始です。登りはじめはブナ林の中を進みます。中飯場を過ぎたところから、ダケカンバが目立ち始め、白い幹を力強く伸ばしています。ダケカンバ林の木々はまばらで、森の中はブナ林よりも少し明るいです。

中飯場～ 甚之助避難小屋(じんのすけひなんごや)



↑ オオシラビソ林

明るいダケカンバの林を抜けて、甚之助避難小屋が近づいてきた頃から、周りにオオシラビソの針葉樹が見え始めます。ダケカンバに混ざって、部分的に林を作っています。

甚之助避難小屋～室堂(むろどう)

↑ ミヤマハンノキ

甚之助避難小屋を過ぎて、標高2,000mを超える頃には、人の背より高かった木が徐々に低くなってきます。黒ボコ岩が近づいてくる頃には周りがよく見えるようになり、背丈を超える木はほとんどなくなります。このあたりにはミヤマハンノキなど背の低い木が生えています。

室堂～御前峰(ごぜんがみね)

↑ お花畑(室堂)

↑ ハイマツ林

室堂付近からはいよいよ高山帯です。標高2,400mを超える頃には、人の背丈ほどのハイマツが辺り一面に広がります。ハイマツの間にはお花畑が広がり、美しい花を咲かせています。お花畑の中には多くの植物があり、草の様に見える高さ10cmほどの小さな木にもたくさんの花がついています。

環境省中部地方環境事務所・環白山保護利用管理協会

